

てるちゃんは いう

何のために 生きてきたのかと
私が死んだのは 何のためなのかと
私の苦しみは 誰のためだったのかと
生きてきた足あとを 残すことさえ許されず
いのちのすべてが くだきこわされた
あの日は何のためかと てるちゃんがいう

原爆を作ったのは 人間だよと
原爆を落としたのも 人間だよと
あの日の地獄をつくったのは すべて人間の手によるものだと
語ることも 叫ぶことも うめくことさえ 奪われて
死んでいった妹が 私に口を開かせる
あの日 妹はまだ十八だった

ヒロシマの遺骨（ほね）をかえさにゃあ
生きた証を 返さにゃならん
ヒロシマの 叫びを 返さにゃあ
今の社会へ 大人たちへ
子どもたちへ すべての生きるものたちへ
子どもたちへ すべての生きるものたちへ

詩・曲/中島 智子
1980年

ヒロシマには歳はないんよ

ヒロシマは すべてがあの日のいしぶみ
川も 道も 川の底の土も
今 ヒロシマに 風はそよぎ
緑の木々は しげっているけれど
ヒロシマにいるとき ほんとうは死者の上

ヒロシマというとき ほんとうはなくて
ヒロシマというとき あの日に帰る
今 ヒロシマに 水は流れ
空は どこまでも あおいけれど
このまちは いつまでも 歳をとらない

私は 種まく すべての人に
花さき 実るまで きっと死なない
今 ヒロシマに 人はうつり
幾年月が 流れたけれど
ヒロシマを語って 私は生きる
ヒロシマを語って 私は生きる

詩・曲/中島 智子
1980年

